

イースター礼拝

-神様により頼む者となるために

Ⅱコリント1:3-11

2016,3,27 HKJCF

概観

序)①受難日礼拝:神の子の苦難の意味
②イースター礼拝:苦難に働かれる慰めに満ちた神様

- 1、キリストにある苦難 v3-5
- 2、苦難の目的 v6-7
- 3、アジヤでの苦難 v8-11
- 4、苦難に働く復活の主

I キリストにある苦難

- 1、神様 ①キリストの父 ②慈愛 ③慰め
- 2、慰めの連鎖
- 3、キリストの苦難と慰め
⇒①苦難のあるところ、慰めも溢れる
②父の慰めはキリストによって
③慰める:パラカレオー1) 勧告する
2) 懇願・嘆願3) 慰め、励まし、力づける
>パラクレオス: 弁護人、助け手、聖霊
ピリピ4:10-13, Ⅱコリ6:1-10

II 苦難の目的

- 1、苦難を通しての慰め 詩119:143
- 2、慰めによる力
①意味と目的 ②キリストとの出会い
- 3、苦難と慰めによる交わり
→真の一致と連帯 ローマ16:3-5
- 4、苦難と慰めによる希望
⇒私に起こった祝福は必ずあなたにも起こるといふ福音と聖霊への信頼
Ⅱテモテ4:6-8

Ⅲアジヤでの苦難

- 1、死を覚悟する苦難:死刑宣告も同然
- 2、復活の主への信頼:死刑宣告の破棄
- 3、救いと解放の神への無限の希望
ローマ8:33-39
- 4、祈りによる連帯(祈り・恵み・感謝)
⇒苦難・祈り・希望・連帯・感謝

Ⅳ苦難に働く復活の主

- 1、苦難には意味がある ヨハネ9:1-3
- 2、神様自ら苦しむ方、痛む方、傷つく方
- 3、私たちが苦しむ人の側に立ちたい
参) 良きサマリヤ人
- 4、苦しみの中の慰めこそ福音そのもの
- 5、教会は苦難と救いに連帯する共同体
イザヤ53→苦難と慰め→Ⅱコリント2